

平成29年度 第1回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成29年7月26日(水)午後2時～午後4時30分

◇ 会 場 埼玉会館6C会議室

◇ 出席者 (1) 出席委員

市川栄子 委員 西浦大治郎 委員 小西宣子 委員
笛木智恵美 委員 深堀敬治 委員 江田明子 委員
小柳直昭 委員 酒井由紀子 委員 荷田幸雄 委員
早川恭子 委員 日向美津江 委員

(2) 図書館職員

【県立熊谷図書館】

代島 館長 大嶋 副館長 荻原 副館長 村中 司書主幹
峰岸 司書主幹 村上 担当課長 山崎 主任

【久喜図書館】

及川 館長 長谷川 副館長 銭場 教育主幹

(3) 教育局職員

【市町村支援部】

松本 部長 塩崎 副参事

◇ 会議次第

- 1 開 会 [熊谷図書館 村上 担当課長]
- 2 任命状交付 教育局市町村支援部 松本 部長
- 3 あいさつ 教育局市町村支援部 松本 部長
県立熊谷図書館 代島 館長
- 4 委員紹介
- 5 会長・副会長選出
委員の互選により、会長に早川委員、副会長に酒井委員を選出した。
- 6 会長・副会長あいさつ
- 7 職員紹介
- 8 平成28年度第3回会議録の報告
全出席委員、異議なく承認された。
- 9 会議録署名委員の指名
会長が、市川委員と江田委員を指名し、了承された。

10 会議を公開することについて議決
傍聴希望者はいない旨の報告あり。

11 議 事

(1) 県立図書館の概況について

[熊谷図書館 荻原 副館長]

資料 1 ①埼玉県立図書館の概況及び資料 1 ②県立図書館 2 館体制の現状に基づき、埼玉県立図書館の概況について説明。

【質疑】

委 員／埼玉県立図書館の数がどうして少なくなったのか大きな疑問であったが、今の説明で理解した。質問は、資料 1 ①の「2 施設及びサービスの現状」のところで、蔵書冊数、調査相談件数、協力貸出冊数がそれぞれ全国 3 位、8 位、9 位となっているが、関東近県で約 700 万人の県民がいる本県と同程度の人口がある千葉県や神奈川県は、蔵書冊数から協力貸出冊数はどういう位置づけになっているのか。

事務局／数字自体は日本図書館協会が毎年調査しているもので、今明らかになっているのは 27 年度実績のものである。蔵書冊数は、1 位、2 位が大阪、東京で、千葉県は 5 位、神奈川が 10 位となっている。千葉が多いのは、本県と一緒に県立を複数館、3 館持っているのが理由と思われる。埼玉も 3 位と蔵書が多いのは、今まで複数館あったことが関係している。もちろん再編の過程で、複本については県民リサイクルで処分してきているが、それでも順位はかなり高いところにある。

調査相談件数は、千葉が 7 位で 37,533 件、8 位の本県とそれほど違いはない。神奈川は 23 位で、17,838 件となっている。協力貸出については、千葉はかなり多く、107,022 冊で 1 位となっている。その次に東京、大阪と続いて、神奈川は 18 位で、20,000 冊ほどとなっている。

委 員／資料にある図書館の設置率は、どういう式で算定しているのか。

事務局／例えば、平成 27 年 3 月に浦和図書館が廃止になった時点で 94%となっているが、その時点での市町村数が 63 市町村で、そのうち 59 市町村で図書館が設置されているということでこの数字が算定されている。

委 員／平成の市町村大合併があり、市町村の数が減って、分母がだいぶ違っている。それで見かけ上数字が跳ね上がるが、昭和 55 年から平成 15 年に 54%から 81%に増えているのは、その辺の事情なのか。

事務局／もちろんその影響もあるが、もともと埼玉県内は、規模の大小はあるが、市町村立図書館の設置率はかなり良い状況にある。大合併の影響がないとは言えないが、首都圏以外の県よりははるかに見かけでない実態に近い数字だと考えている。

副会長／先程、ライフチャンスライブラリー構想が立ち上がったという話があ

ったが、つい最近、北部交流拠点施設に県立図書館を設置する、という知事の発言があったと思うが、具体化する可能性はあるのか。

教育局／図書館の運営そのものというよりは、図書館整備全体の話なので私から答えさせていただく。今の委員の話にあった知事の発言というのは、昨年9月の県議会で、図書館の将来構想について、北部に図書館を整備したいという考えを持っていることを発言されたものである。そういう考えはあるわけであるが、県立の図書館を新しく1つ作るのはなかなかの大事業であり、ある種勢いみたいなものが必要な部分がある。現段階では、今の2館でどんなサービスを充実させていくべきかということを検討している。

委員／協力貸出というのは、1日に100冊くらいと考えてよいのか。

事務局／1日何冊という事はあまり考えたことがない。協力貸出については、県内の公共図書館から県立図書館の蔵書を貸して欲しいという依頼があって出すもので、夏休みに近づけばそれなりに増えてくるということはある。1日平均という把握はしていなかったが、それだけの分量はいつも動いているということである。

委員／この蔵書から考えて、稼働している貸出数というのは、いい状況ととらえているのか、もっと増えた方がよいと考えているのか。

事務局／県立図書館では、市町村立図書館が持っていない本、あまり街の本屋さんで見ることのない、割と値段が高い専門書といったものを中心に購入し、一般に流通しない本は寄贈により蔵書にしているので、市町村立図書館が持っている本とは微妙に違うところがある。県内の図書館活動が活発になれば、それに付随して増えていくものと考えている。いわゆるベストセラーの本を県立図書館で持っているわけではないので、単に小説などの読書が盛んになれば県立の蔵書利用が増えてくるとは考えられない部分がある。もちろん多い方がよいとは思いますが、市町村立図書館がある程度整備されていれば、そんなに増えないと思っている。

委員／価値がある本がたくさんあるという認識はあるが、2館体制になって、ネットワークによる利用を進めていこうと考えていると理解した。価値ある蔵書を、本当に必要としている方がいつでも使えるような状況になっていけばよいと思ってお聞きした。

(2) 平成28年度事業実施状況について及び

(3) 平成29年度予算及び事業について

〔熊谷図書館 大嶋 副館長〕

平成29年度要覧に基づき、平成28年度事業実施状況及び平成29年度予算及び事業を説明。

【質疑】

委員／要覧の12ページ、当初予算のところ、図書館管理運営関係予算の資料費は図書館で一番大事な部分だと思うが、2館合計で5,798万円とあるが、これは先程も聞いたが、人口700万人レベルの県と比較すると、多いのか、少ないのか。

このページの一番下のところの県立図書館活性化推進事業で検討調査の費用76万円を予算化しているが、これはコンサルか何かに委託するのか、小さい金額なので、中身的にどういうイメージなのか説明いただきたい。

21ページ研修支援事業の下から5つ目のマスに、学校図書館研究大会とある。23ページ久喜図書館の28年度県民向け事業の8月と10月に学校図書館に関する研修会を開催したと記載がある。教育局の方や学校関係者もいるので伺いたいが、埼玉県の場合、県立の高校や市町村立の小中学校には学校司書の方は必ず配置されているのか、いない場合はクラスを持っている先生が役割で図書室担当になって、普段の授業やクラス運営の合間に、図書を選んだり、貸出の仕事をしたりしているのか伺いたい。最近、学校司書について新聞などで報道があるので説明をお願いしたい。

事務局／資料費については、先程と同様、日本図書館協会の資料になるが、28年度についての調査で全国11位である。

教育局／県立図書館活性化推進事業76万円の使い道は、コンサルの委託は考えていない。内部的な検討、いわゆる事務的な経費を計上している。具体的には、先進図書館の視察の旅費などである。

事務局／学校図書館を担当する学校司書の配置状況は、埼玉県の場合、県立高校には100%学校司書が配置されている。小学校、中学校については、今正確な数値は申し上げられないが、全国的には、最近配置率が上がっており、2、3年前に5割を超え、60%近い数字が出ているかと思う。学校司書はいないが、司書教諭が発令されている学校は多数ある。その場合、学校図書館の運営は司書教諭が中心になるが、実際には担任となっていたり、教科担当となっている状況の中で、学校図書館の担当なので授業時数を減らすなど配慮されている学校は少なく、非常に多忙な中で学校図書館の運営業務を行っている状況にある。学校司書が配置されれば、より学校図書館が活用されると思う。本日は、小中学校の埼玉県学校図書館協議会役員委員もおいでなので、補足いただければと思う。

委員／今の説明のとおり、小中学校のほとんどは、学校司書の配置が難しい状況である。先程、全国的には5割を超えたという報告があったが、この数字は市町村でずいぶん温度差がある。司書教諭については、法令上

12 学級以上に 1 名と決まっていますが、12 学級に満たない学校では発令もままならない。発令されても授業時数の削減は学校ごとになり、ほとんど行われていないと思われる。その中で担当した先生が孤軍奮闘しているという状況である。

学校司書の配置は、近年、市町村ごとにずいぶん進んではいるが、配置されても週に 1 日とか 2 日となっているので、いない日は学校ごとの努力になっている。たとえば保護者の方や PTA の役員の方にボランティアをお願いするとか、公立の図書館にアドバイスをお願いして図書整備を進めているとか、そういう状況となっている。

委員／先程、資料費が 28 年度の額で全国 11 位という話があったが、これは人口規模によって違うので、人口当たりで割るとどのくらいになるのかを出さないと、例えば 1,200 万人の東京と、100 万人にも満たない島根県とで予算を比べて多い少ないといっても意味がないと思う。700 万人規模の県と比較してどうなのかを見ていかないといけないと思う。

学校司書の配置というのは大きな問題だと思うので、ここでやる話ではないと思うが、やはりその辺は県単費でも各学校につけるようにしないと、教員の負担が大変だと思う。県の教育委員会を通じて、学校教育の担当の方に話を持ち上げてもらいたいと思う。

事務局／資料費の関係について説明する。データは 28 年度当初の資料費の数字である。先程 11 位と申し上げたが、人口 1 人当たりの資料費という形で算出すると、43 番目となる。700 万以上の人口を持つ都道府県で見ると、東京都は 1 人当たり 24.21 円、大阪は 12.46 円、千葉が 9.87 円、埼玉が 7.90 円、愛知が 6.93 円、神奈川が 4.43 円となっている。

会長／高校の司書の配置状況はどうか。

委員／高校は先程の説明にあったが、全校配置されている。そういう意味では大変恵まれている。

会長／要覧の 7 ページにある熊谷図書館の振興業務で、小中学校の総合的な学習に対応した「調べ学習文庫」の利用が、28 年度は 8 セット 262 冊というのは少しさみしいと思う。司書がいる、いないということが関わってくるのか。利用するときには、学校が直接借りに行かなければならないのか。学校に持ってきてくれるわけではないのか。

事務局／実はだいぶ前に整備したもので、内容がかなり古くなっているが、なかなか補充に手が回らない状況で、課題となっている。利用方法については、来館以外は、直接の物流のない高校図書館と同じように、最寄の公立図書館で受け取ることはできる。

会長／そういう形で利用ができるという PR がもっと必要と思うし、資料をリニューアルするのも大事だし、市町村がそれを受けるとなると仕事が増

えることになるのでその理解も必要だし、様々なことが絡んでくると
思う。是非、前向きに改めていただけたらと思う。

委員／学校図書館は、地域の市町村の図書館と連携を取っている活動している。それから、市町村の図書館は、学校図書館だけではなく、学童保育所、障害者施設などとも連携していると聞いているが、そういう活動に対する県立としてのバックアップ体制とか、指導とか、研修とか、そういうことは行っているのか。

事務局／学校図書館法が改正され、2014年に学校司書が制度化された。その頃から県立図書館でも学校図書館に対する新たな支援ができないかと、手がけ始めたところである。各市町村の図書館においては、支援センターを持って、資料的な支援を行い、授業の中での資料の使い方について研究されていくことが、理想的な形ではないかと思う。たとえば、三郷市に関しては、非常に先進的な支援活動をされている。

県立図書館での模索の一つとして、たとえば、実際に先生方の授業展開で図書資料をどれだけ活用できるのかを体験していただくために、今年の6月、高校の商業科の先生に熊谷図書館のビジネス支援室のデータベースなどの資料を使った演習的な活動をしていただいた。久喜図書館では、7月31日に小中学校の先生を対象に、児童資料を使って、総合的な学習の調べ方について体験いただく講座を予定している。せっかくなので、三郷市の取り組みを聞きたいところである。

委員／三郷市の場合は、学校と図書館との連携ということでは、教育委員会の生涯学習部に「日本一の読書のまち推進室」が置かれ、そこに読書活動支援員が専任でついている。学校での活動はその方がメインとなって行っているので、図書館としては、資料的なサポートを行っている。

まず「学級文庫お楽しみセット」ということで、小学校全クラスに1クラスあたり40冊の学級文庫を図書館でセットして、図書館から連絡車で1学期に1回送っている。その文庫は、それぞれの学校のクラスで管理してもらい、子供たちに自由に使ってもらっている。中学校では、朝読をやっているので、「朝読セット」ということで同じように中学校1クラス30冊程度、文庫本が中心になるが、セットして送っている。そのほか、調べ学習に対応できるように、ポプラディアという百科事典を図書館で何セットか用意し、各学校に巡回車を使って配って、それぞれ授業に合わせてポプラディアの使い方を指導するというをやっている。今はインターネットで調べればなんとなく結果が出てしまうという時代ではあるが、責任を持って編集された書籍を使っての情報の調べ方というものを体験してもらっている。

そのほか、学校のクラス担任の方に、団体貸出ということで、調べ学

習に使っていただくため、1クラス100冊1ヶ月貸出ということでやっている。学校の先生も忙しいということもあり、なかなか図書館に本を借りに来たくても来られないということもあるので、予算的な制限があり、月に2回くらいしかできないが、業者委託で学校へ本をこちらから送るといったサービスを行っている。

また、図書館でのサポートではないが、三郷市では、全小中学校に業務委託という形で図書館司書を配置している。ただし、毎日というわけではなく、週に2日、1回あたり5時間という形で学校司書が入っている。やはりそういう方が入ると学校図書館の利用も増え、貸し出しも増えているという話を聞いている。ただし、これも毎年苦労して予算を確保しているということで、県に公費で配置してもらえればと思っている。

事務局／県立図書館の学校支援について、少し補足させていただく。要覧8ページの活動紹介にあるとおり、久喜図書館は障害者サービスを担当している。最近、関心を持たれている発達障害など、様々な障害を持っている方がわかってきた。中でも読むことが難しい方々のためにマルチメディアデジターという資料は、画像と文字とを一緒に見ることができて、図書の理解に大変効果があるといわれている。また、児童サービスでは、障害のある子どもたちも楽しめる布絵本を館のボランティアの方々の方で製作している。こういったものを持っているということ、教育の現場に伝わらないと活用がされないのが、久喜図書館では、今日の配布資料にあるように、総合教育センターで行われる研修の中での展示や、講座の中での紹介を行っている。大変役に立つ資料であるが、なかなか障害者自身も、指導される先生方も知らないことが多いので、活用できる資料の存在を周知するよう総合教育センターなどと協力して進めており、こういった形での支援も進めている。

副会長／職員の方々の研修について伺いたい。21ページにあるのは研修支援事業ということになるので、おそらく県内公共図書館の職員向けの研修を提供するということだと思うが、県立図書館の職員の方自身が研修をする機会がどのようになっているのか、あるいは自己研鑽について支援する体制があるかということが気になるが、いかがか。

事務局／職員の研修体制としては、夏の期間を除いて毎月第4金曜日を館内整理日、休館日としていて、その時間を使って毎月何かしら研修をするようにプログラムを組んでいる。それから、先ほど予算の関係でも話があったが、関東甲信越静地区の図書館職員に対する文科省の研修や国立国会図書館が行う様々なサービスの研修などがあり、業務の状況を見ながら、出張により研修に行ってもらおうようにしている。自己研鑽に係る費用面での制度はないので、自前でやっている職員はいるかもしれないが、

こちらでは把握していない。

副会長／日本図書館協会で認定資格制度をやっていて、公立図書館向けには認定司書を出しているが、私が見たところ、飯能高校の方はいたが、県立図書館の方は今のところ 135 名の中には見当たらなかった。

事務局／かつて県立図書館の職員だった者 2 名が認定司書となっている。飯能高校の職員は、認定を取った時は県立図書館の職員だったが、人事異動により今は県立高校の職員となっている。

副会長／是非、そういうところも目指して自己研鑽に励むと、よりモチベーション高く楽しく働いてもらえるのではないかと思い、質問した。

今、高校に行かれた方がいるという話があったが、異動の計画というか、どのように異動は行われているのか。

事務局／人事異動についてであるが、現在、司書は県立高校と県立図書館におけるが、採用は一括して人事委員会で行っており、形の上では県立図書館に採用になったり、県立高校に採用になったりする。その後、異動によって交流することがある。最近は、県立図書館から県立高校に、年に 1 人か 2 人、ある程度中堅の職員になると異動するということが細々とある状況である。人事異動の計画については、司書の人事異動に関する計画と銘打ったものはなく、県立高校とか、教育局職員の人事異動方針がそれぞれあり、それに従って実施している。

委員／12 ページの資料費について伺う。資料費が 2 館分で 5,798 万円あるとのことだが、この資料費の使い方というか、選書についてはどのようにやられているのか。例えば私どもでは、年間の予算があって、そのうちのたとえば 7 割を司書の方で毎週選定を行って、残りの 3 割は利用者からのリクエストに充てるというように、だいたい資料費をこういう風に使おうと割り振っている。県立図書館の場合、市町村の図書館からこういう本を買ってほしいとか要望があると思うが、そういった予算を分けて確保しているのか、それとも日々の選書の中でそういう購入希望があったからと購入しているのか、そういう資料費の分け方、使い方に明確なものがあれば教えていただきたい。

事務局／特に、リクエストにこれだけ配分するとか、通常の購入にこれだけ配分するとかという決まりはない。個人の方、もしくは市町村立図書館から上がってきたリクエストをその都度検討して、購入する、もしくは断るといってやっているので、特にリクエストの枠があるということはない。通常、資料の選定は、トーハンという取次があり、そちらから毎日見計らいということで新刊図書が熊谷図書館に入る。それを 1 週間分まとめて担当職員が選定を行っている。それ以外にも、流通に乗らない資料については、国立国会図書館の納本情報だとか、パンフレットだ

とか、新聞記事も含めて様々な情報からピックアップして、必要だと思われるものについては購入あるいは寄贈依頼という形で収集している。

委員／見計らいとその他の割合はどのくらいか。

事務局／手元に資料がないので、次回、お伝えする。

委員／12ページの下から2つ目の新しい事業の説明に、図書館職員を対象にしたビジネス支援研修の実施とあるが、講師の人選とか、カリキュラムとかはどんな感じで予定しているのか。

事務局／概要を申し上げるが、今年度初めて行う事業である。熊谷図書館でビジネス支援室を重点サービスとして立ち上げたので、職員もビジネスマンへの調査・相談に応えられるように、それだけ専門的な知識を得なければいけないということである。全国組織でビジネスライブラリアン協議会という組織があり、図書館関係者への研修会を毎年全国レベルで行っていて、その団体に、埼玉県版という形で、規模的には小さくなるを得ないが、やっていただけないかということで依頼をした。図書館で講師の選定をするというよりは、ノウハウを蓄積して、様々なビジネス系の調査・相談に対応できるレクチャーをしていただける講師陣にお願いして実施するという方向で準備を進めている。

委員／スタートはそのような形にならざるを得ないと思うが、県立図書館を利用していろいろビジネスをやりたいという大企業はないと思う。中小企業や個人で事業を起こしたいという方は、県立図書館に対するニーズは多いと思う。埼玉県は産業にそれなりの事情があるし、今後、高齢化が非常に進む県でもあると思う。中小企業の方が実際に現場でどんな事で悩んでいるのか、問題を抱えているのかというのは、それぞれの地域の商工会だとか、中小企業診断士会だとかがとらえているので、スタートはそのような形でいいと思うが、やっていく中でそういう実際に現場の方々と接しておられる方々との意見交換だとか、講義内容のベクトルの摺合せとかを進めていくと、企業の方々、これから新しく事業を起こしていきたい方にとって参考になるようなサービスができると思うので、その点を念頭に研修を進めていただきたい。

事務局／今、お話のあった件については、要覧6ページのビジネス支援サービスの部分に若干記載している。昨年度ビジネス支援室を新たに立ち上げたので、地元熊谷の商工会議所と相談して、いろんな形でアドバイスをいただいている。また、県にも創業ベンチャーセンターという機関がありアドバイスをいただいた。なかなか一足飛びにいろんなことを始めることは難しいが、できる範囲で少しずつという形で進めているところである。

委員／是非、その方向でお願いしたい。

委員／この県立熊谷図書館の取組は、熊谷市内でも画期的として話題になっている。私は熊谷商工会議所の女性会の会長をしているが、ビジネス支援室の紹介には、会頭をはじめ本当に力を入れていて、例えばノートパソコンを私たちの総会だとか、新年会などに持って来て、データベースの説明・実演を行っている。

少なくとも家計調査などのデータは入っているので、新しく創業される方が、例えば熊谷市のどの地区が狙いやすいのか判断する時に使える。このようなサービスの実施は、図書館は本の貸出だけではないということがよくわかる事業だと思う。

会長／次の時には、是非その進展、経過を説明いただきたい。

(4) 埼玉県立図書館サービス評価指標について

〔熊谷図書館 村中 司書主幹〕

資料2「平成28年度 埼玉県立図書館の重点目標の評価」に基づき、埼玉県立図書館サービス評価指標の平成28年度達成状況及び平成28～30年度数値目標について説明。

【質疑】

委員／評価にあたって、実績の数字ばかりだけではなくて、どのように評価したとか、どういうところを評価したとかを聞きたいと思った。

事務局／評価指標として、それぞれ件数とか参加人数とかを挙げているので、基本的にはその実績数値を中心に据えた評価という形になっている。そのほかに、研修会の参加者などにアンケートを実施しているので、その満足度も含めて評価している。また、個々の重点目標について、関連する事業の実績値を参考指標として、それも合わせて評価シートを作成している。

評価シートは、その重点目標にかかわる様々な項目の実績、評価にかかわる統計数値、先ほど申し上げたアンケートの結果、あるいは今後の行動計画に対する課題など、そういったものを1枚にまとめたものである。今回は資料としては付けていないが、平成28年度から30年度の評価方法としては、その総合した評価シートに基づき評価するとしている。評価シートについては、Webサイトに公開する予定である。

委員／レファレンスの依頼というのは、Webが大半なのか、それとも来館しての依頼が多いのか。評価理由の最初のところに、浦和図書館の閉館の影響が懸念されたが、93%に達したと書かれている。先ほどの要覧の18ページの来館者数の推移を見ると、27年度は閉館している期間があって比べるのは難しいと思うが、26年度の来館者数と28年度のそれを比べたときに、浦和の図書館の来館者数がそっくり抜けた状態くらいの推移

なのかと思った。ということは、浦和図書館に来館して調査していた人はどういう状況になったのか。分室を設けたことはとてもありがたいが、分室利用の数値はそんなに大きくないと思っていて、図書館を使う人は年配の人も多いと思うが、年配の人はなかなか Web でということは難しいと思う。Web で調査依頼ができるということはとても画期的なことで便利なことだと思うが、そういったことに乗れないけれど、図書館を通じていろいろ知りたいという人も多いと思うので、全体としてはクリアしているのかもしれないが、本当に充足されているのかというところまで見ていただければ、本当の県民の満足につながると思う。

事務局／レファレンス件数については、浦和分室で受けている件数も相当数入っている。Web によるものは、主にメールによるものである。そのほか電話や FAX でも受け付けているので、その数字も入っている。今は内訳を数字として持っていないので具体的な数字を示すことはできないが、様々な形でレファレンスは受け付けている。

また、先程、利用者アンケートの話をしたが、毎年、来館者に対するアンケートも行っていて、昨年度は非来館者に対するアンケートを Web サイトで行い、そこでも満足度を測っている。

委員／2の Web サイトのアクセス件数や3の協力レファレンス処理件数など、数を設定してそれに達成したかしないかで4から1の評価を付けるという方法もあると思うが、レファレンスで問題解決ということになると、例えば目標数値が46,250件あって、42,938件の相談があったから3だということだが、42,938件のうち、聞いて答えが出て満足したというのはどのくらいあるのか。県立図書館に聞いてみたが、答えが出なかった、わからないと言われたというのであれば、評価としてはどうなのかという感想を持った。アクセス件数と相談件数とは違うと思う。実際に相談した人の満足を含めて評価3と、私たちは理解してよいのか。

事務局／レファレンスの評価については、件数だけを勘案している。図書館のサービスとしてレファレンスをやっているということで、先程の利用者アンケートでは満足度は取っているが、個々のレファレンスの回答に対する満足度測定はこれまで行ってない。御指摘のレファレンス個々の満足度把握については、今後どのように対応していけばいいのか研究が必要かと思う。

副会長／1番と2番に関係することだが、県立図書館の Web を見たところ、レファレンス関係で「調べ案内」というコーナーがある。非常に優れていて、今までの過去の蓄積があるのだが、残念ながらまだ組織化がされていない状況なのかと思った。たぶん3館あった時代の、それぞれの図書館が出してきたシリーズごとの、何々についてどうやって調べましょ

うといったリーフレットみたいなものを Web にあげたのだと思う。実は、すごく興味深い質問に対する答えがわかるものなのだが、探せない。今後の課題になるかと思うが、これまでの蓄積を生かす形で組織化を行えば、例えば 1 番のレファレンス件数として数えることもできるし、2 番の Web サイトのアクセス件数も増えるのではないかと思い、意見として申し上げた。

事務局／まさに御指摘のとおりで、図書館ではパスファインダーという言い方をしますが、各図書館で、こういう事項についてはこういう風に調べたら簡単にできますと 1 枚もののリーフレットを作って、それをパンフレットボックスに入れて、その場で取ってもらえる形にしている。そして、その 1 枚ものそれ自体を PDF にして Web サイトにあげている。そのため、検索機能がついているわけではなく、単に並べているだけとなっている。そういったものを活用するためにも、図書館の Web サイト内を検索できるようにすることを今後研究していかなければいけないと思う。

委員／利用している立場からと言うと、Web サイトに横断検索システムがあるが、まずどの図書館か選びなさいとある。そうすると、私が探したい本がどこにあるのか、「久喜、ない、ダメ」を繰り返しているうちに億劫になって「またにしよう」ということがあった。本の題名を入れて、どの地区にある、どの図書館にあるという順序で出てくるとわかりやすいと思った。

事務局／横断検索の画面では、市町村の名前が縦に並んで出てくると思うが、それがある程度地域別の塊になって縦に並んでいる。そこに先にチェックを入れて検索する形になる。下の方の段には、全てとか発行から 2 か月とか、いくつか条件を付けられるチェックボックスがある。とりあえず全てをチェックしていただくと、県内の図書館全部を検索することになり、時間がかかる。ある程度、例えば大きめの市町村だけにチェックを入れると、どこの図書館にあるのがわかると思う。

委員／私のように、とりあえず飛びついて「えっ」と思う利用者に対してわかりやすく伝えてもらえるものがあると、さらに利用者が増えるのではないかと思う。

事務局／最初に検索窓を開けた時に、検索状態がどういうデフォルトになっているかというのは、検索をする上で重要かと思う。今後、システムの入替えがあり、システム担当者とも毎月のように打ち合わせを行っており、そういった意見を反映していくようにしたいと思う。

委員／5 番の図書館の企画力・情報発信力の強化のところだが、新聞 25 件とか雑誌 63 件とか外部メディアに県立図書館の事業がいろいろ掲載されている。わかる範囲で結構だが、この中で反響の大きかった記事だとか、

その記事が出たことで問い合わせが増えたというものがあるか。
事務局／週刊朝日に、健康医療情報について特集記事が組まれたときに取材を受けて、本日配った健康・医療情報リサーチガイドが紙面で取り上げられた。他にも週刊誌で取り上げられた時には、それ自体をツイッターなどに載せたりすることもある。

ほかに、NHKのファミリーヒストリーで、市村正親さんが出たときに、市村さんのお父さんが発行していた新聞が番組で取り上げられて、その新聞を県立熊谷図書館が所蔵していたため、熊谷図書館でロケが行われ、出演した職員もいて話題になった。

(5) その他

事務局、委員それぞれなし

議事終了

12 閉会

〔熊谷図書館 村上 担当課長〕

平成29年度の第2回協議会は、11月10日（金）に熊谷市内で開催する予定。

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印